
諫早駅周辺整備デザイン計画検討会議
報告書

平成27年2月

目 次

【諫早駅周辺整備デザイン計画検討会議 報告書】



諫早駅周辺地域の航空写真（H26年4月撮影）

1. はじめに	2
2. デザインコンセプト	4
1) 諫早および駅周辺におけるデザイン要素	
2) デザインコンセプト	
3) デザイン基本方針	
4) デザイン展開のポイント	
3. デザインイメージ	6
1) 外観のデザインについて	
2) 自由通路および交流広場のデザインについて	
3) 交通広場のデザインについて（東口および西口）	
4. 諫早駅周辺整備に伴い配慮・検討すべき事項	11
1) 広場を中心とした周辺地域への波及・調和	
2) 景観ルールづくり	
3) 魅力とにぎわいづくり	
4) 環境にやさしい空間づくり	
5. 参考資料	12
1) 検討会議で出された意見（工夫すべき点・アイデア等）	
2) 再開発ビルの外観デザイン	
6. 検討会議の組織と経過	14
1) 委員名簿	
2) 検討会議の経過	

1. はじめに

1) 諫早駅周辺地区の位置付け

諫早駅周辺地区（以下、「当地区」という。）は、JR長崎本線、JR大村線及び島原鉄道が結節していることから、古くから長崎、島原、大村等を結ぶ交通の要衝として栄え、商店街を形成する傍ら、諫早税務署などの国の機関や長崎県県央振興局が立地するなど、公共公益施設等の都市機能が集積しています。

諫早駅は年間約490万人が行き交う交通拠点でありながら、当地区は社会資本整備の遅延により、都市基盤が脆弱で、特に諫早駅の正面（東側）には、所定の条件を満たす駅前広場が整備されておらず、駅利用者のみならず、周辺の店舗、駅への送迎にも大きな影響を及ぼしていることから、周辺環境の早期改善が強く望まれています。

このような中、九州新幹線西九州ルート建設が平成34年春の開業を見据え建設が進められており、諫早駅も新幹線駅として計画されていることから、これを契機に当地区の整備を行い、「観光振興」、「物産振興」、「情報発信」、「定住促進」、「産業振興」、「スポーツ交流」とした6項目の展開方針のもと、諫早市及び島原半島3市（島原市・雲仙市・南島原市）では、4市の魅力の融合による多様な交流と活力を生み出すまちづくりを目指し、4市での共同事業を行っていくこととして協議を進められています。

当地区は、諫早市総合計画において、ゆとりと潤いの都市空間と都市機能の整備を推進する地区として位置付けられており、また、長崎県央地方拠点都市地域基本計画においては、「商業・業務、広域行政、交通等」を主な拠点機能とする位置付けがなされています。

また、当地区の整備計画については、有識者による検討委員会の意見をもとに、「ひと・とき・きぼう」を結ぶ諫早駅、を基本コンセプトとして平成25年9月に公表され、交通ターミナル機能・情報ターミナル機能を活かした商業・業務拠点の形成、市の玄関口にふさわしい、ゆとりある都市空間の創出、諸活動を支える交通体系の確立を整備方針に定め、まちづくりを推進することとされています。

2) デザイン計画検討の目的

諫早駅周辺整備事業の実施にあたり、再開発ビル、交通広場および自由通路等について、諫早の玄関口としてふさわしい意匠や色彩等を考慮した、公共的空間のデザインが求められます。

これら公共的空間のデザインの検討を目的として、平成26年10月に「諫早駅周辺整備デザイン計画検討会議」を設置しました。

本報告書では、これまで当会議で検討した「デザインコンセプト」や「デザインイメージ」、「配慮・検討すべき事項」などについて取りまとめたものであり、今後の設計等の一助となることを望みます。

（参考）平成25年9月公表資料より

◆諫早駅周辺整備事業の基本コンセプト

「ひと・とき・きぼう」を結ぶ諫早駅

◎人と人とのつながりを結ぶ駅

〈機能〉バスターミナル機能を駅前広場へ移設、JRと島原鉄道との結節、
諫早市ほか島原半島3市の観光・物産等の情報発信機能の設置

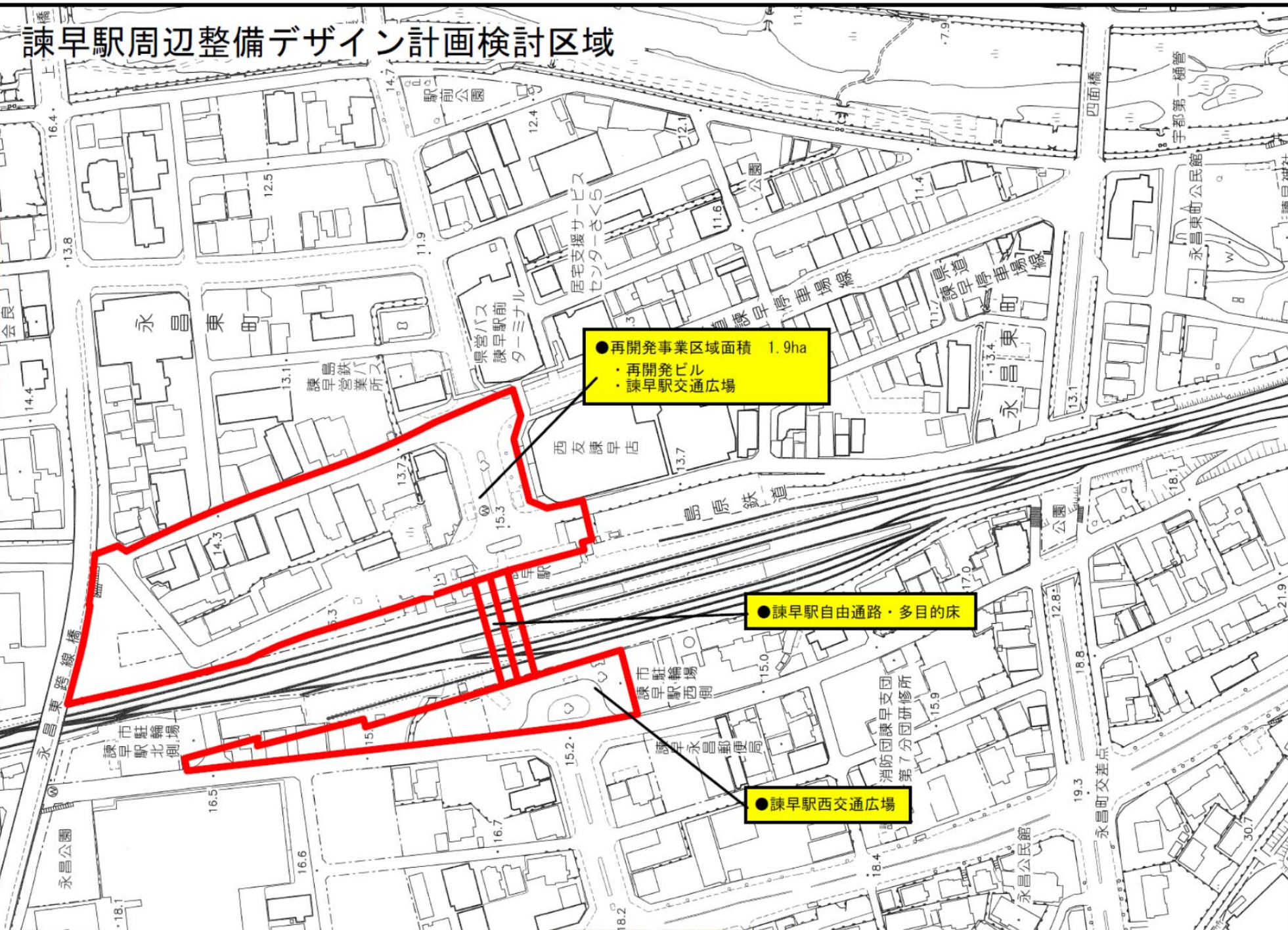
◎憩い・賑わいのあるひとときを有し、 歴史を礎に未来へと大きく飛躍する駅

〈機能〉観光物産・物産振興施設、商業施設、事業所・事務所等の設置

◎希望に満ち溢れ、地域とともに発展する駅

〈機能〉情報発信機能、交流広場の設置

諫早駅周辺整備デザイン計画検討区域



●再開発事業区域面積 1.9ha
 ●再開発ビル
 ●諫早駅交通広場

●諫早駅自由通路・多目的床

●諫早駅西交通広場



2. デザインコンセプト 1) 諫早および駅周辺におけるデザイン要素

●環境・資源

■立地特性・産業

- ・東は有明海、北西は大村湾、南は橘湾といった特徴の異なる**3つの海に臨む**
- ・長崎街道の宿場や番所があり、また多良街道、島原街道の分岐点に位置するなど、**古くから交通の要衝**として重要な役割を果たしてきた
- ・諫早中核工業団地をはじめとする市内の各工業団地は、長崎県の**産業拠点**として重要な役割を担っている



■自然環境

- ・一級河川「**本明川**」
- ・諫早公園 →日本の歴史公園 100選 (H18)、**つつじの名所**
→山頂には、樹齢600年の大楠
- ・轟溪流 (水源の森百選、名水百選)
- ・多良山系
- ・長崎県内 No1 の米の産地 (稲穂の風景)
- ・干潟、干拓地



○小野平野

○諫早石

硬質な砂岩でグレー～ベージュ系の色
面持ちは暖かく優しい雰囲気を持つ



○リズムカルな飛び石

○眼鏡橋

「いさはやの眼鏡橋 行き戻りすれば
おもしろかなり」
⇒かつて多くの人が行き交い、賑わい、
魅了した石橋



○眼鏡橋



○ミニ眼鏡橋

■歴史・文化

- ・鎌倉時代の文書に「伊佐早」として登場、戦国時代に西郷尚善が統一
→高城跡 (山城、別名「亀城」) が今の諫早公園、全山が国指定天然記念物
- ・「**永久不壊の眼鏡橋**」は本明川から諫早大水害の後に移設、**日本で最初の石橋での重要文化財**
→全国の多くの眼鏡橋が半円形なのに対し、ここは1/3楕円形の**曲線美**
→眼鏡橋の移設の際に「模型」として作成されたミニ眼鏡橋
- ・**飛び石**：本明川に橋が無かったところは重要な交通施設 (5か所)
- ・本格的な桃山様式の名庭園「御書院」
- ・**高城回廊**：趣ある往時の姿をしのばせる約1.3kmの緑の散策路
- ・H17年に市町村合併
- ・**のんこの皿踊り**
- ・野呂邦暢 (芥川賞作家)、伊東静雄 (詩人)、野口彌太郎 (画家)



○御書院

●諫早市のまちづくりに関する計画

- ① 諫早市総合計画：「**にぎわい**」
- ② 諫早市都市計画マスタープラン：「**安全、安心な回遊空間**」、「**活性化・賑わいの演出**」
- ③ 諫早市中心市街地活性化基本計画：「**まちの顔**」
- ④ 諫早市観光基本計画「**自然豊かな交流のまち 諫早**」
- ⑤ 諫早駅周辺整備計画 (新幹線計画を高めるための諫早市のまちづくり)
→基本コンセプト：「**ひと・とき・きぼう**」を結ぶ諫早駅



●市民の意見・アイデア

- ・諫早駅周辺整備計画 (素案) に対する主な意見
「**諫早らしさ等、地方色のある工夫したデザイン**」
(有識者会議、市議会、パブリックコメント、永昌東町商店街など)
- ・新幹線とまちづくり絵のコンクール (平成23年～25年)
優秀賞の多くに**眼鏡橋と川**が描かれている
⇒子供たちに引き継がれる**原風景**



○最優秀賞 (H24年度)

デザインの要素

地形・地勢

賑わいの演出

諫早らしさ

新しい諫早

自然・調和

原風景・造形美

歴史・文化

●中心部にある既存施設

- ・既存の公共施設は**落ち着いた色彩でシンプルな形態**が多い。



○市役所→シンプルな形状に落ち着いたアースカラー



○市立図書館⇒分節化した外観に、ゆるやかなアーチ状の屋根



○諫早市美術・歴史館
⇒シンプルかつモノトーンの色



○市中央体育館
⇒白を基調に、一部アクセントを付加



○市立体育館
⇒力強いフォルムでの躍動感



2) デザインコンセプト

～諫早駅周辺のデザインにあたり目指すコンセプト～

**水と緑と歴史が刻まれた
人にやさしい県央の玄関口**

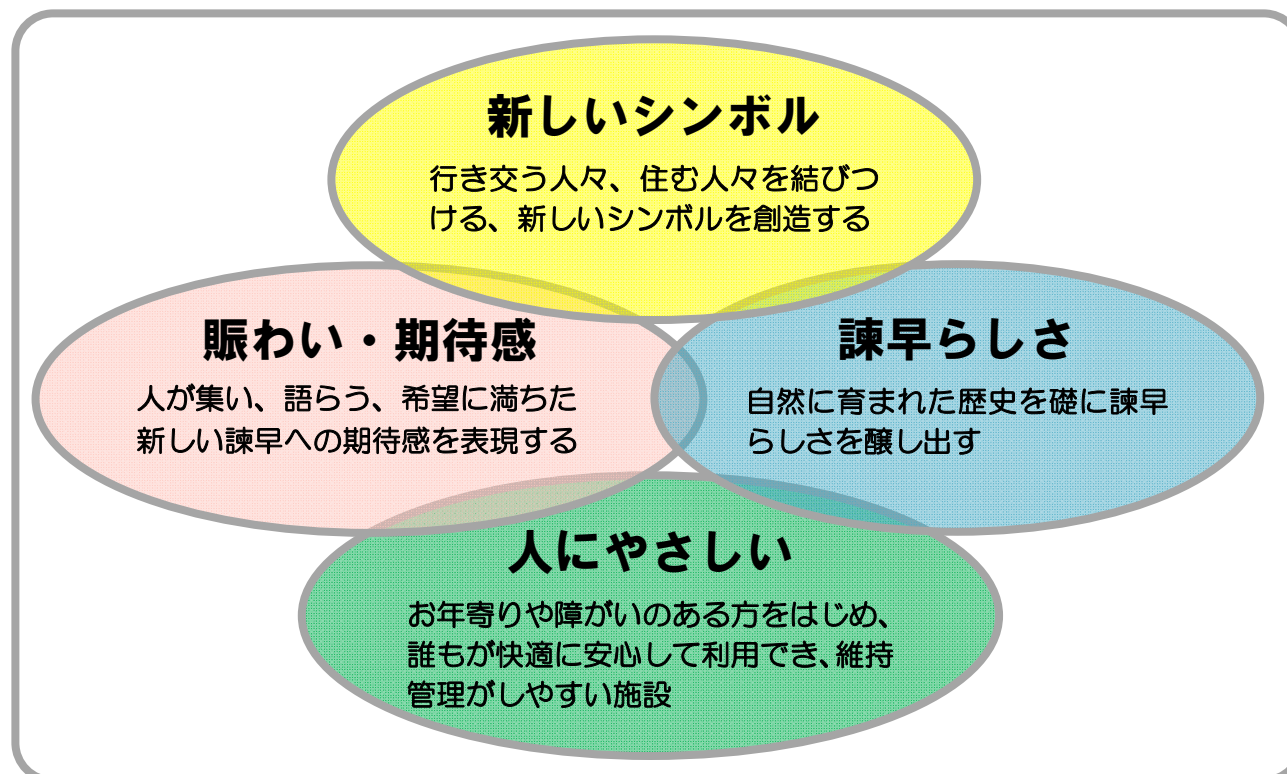
- ・諫早市は、多良山系の森林や上山や御館山等の身近な緑、諫早平野の干拓地、市街地を流れる本明川、そして異なる顔を持つ3つの海など、他に例を見ないほど多様な自然に恵まれています。
- ・また、市内には先史時代から現代に至る数多くの遺跡や史跡、文化財等が残されています。
- ・長崎、島原、西彼杵などの各半島の結節部に位置し、古くから多くの人が行き来する交通の要衝である諫早市。
- ・以上のような特色と、広場を中心とした街並みを活かしながら、人が集い、交流が促されるようなデザインを推進します。
- ・諫早駅周辺のデザインにあたり、「水」と「緑」、「歴史」をモチーフに、「人にやさしい機能的な玄関口」をコンセプトとした空間と環境づくりを目指します。



3) デザイン基本方針

～デザインコンセプトをより具体化するための基本的な方針～

シンプルなデザインを基調とする



4) デザイン展開のポイント

～基本方針を実現するにあたってのポイント～

①諫早らしさを施したデザイン

- ・本明川をはじめとする豊かな自然環境
- ・眼鏡橋
- ・市内の各地域に残された歴史や文化

②将来への期待感や賑わいを創出するデザイン

- ・交通結節機能を活かした交流人口の拡大

③人にやさしいデザイン

- ・誰もが使いやすい（ユニバーサルデザイン）
- ・維持管理が容易



3. デザインイメージ

<空間イメージ>

1) 外観のデザインについて

「往来する人々が心躍る、賑わいとおもてなし空間」

・ 諫早駅の東側から見た再開発ビルの外観については、これまで検討してきた3案のうち、すっきりしたデザインで人を迎え入れるという思いを門の形で表現しているA案を提案する。

- ・ 行き交う人々を繋ぐおもてなしの玄関を「ゲート」で表現
- ・ 希望を繋ぐ、未来へと繋がるゲートとなることをイメージ
- ・ 人々の賑わいを映し出すためにガラスのファサードを採用
- ・ 新しい諫早への期待感・疾走感をシャープなラインで表現



※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。

2) 自由通路および交流広場のデザインについて

・自由通路および交流広場のデザインイメージについて、以下のような空間を提案する。

<空間イメージ>

身近な自然と、明るい未来を感じさせる空間

●自由通路＝来訪者が最初に目にする空間

<デザインアイデア>

- ◇ 「諫早らしさ」＝「自然」を演出する
 - 華美な素材を用いず、シンプルな構造とする
 - 眼鏡橋の形状（曲線）を屋根や舗装面、壁面などに忍ばせる
- ◇ 光を取り入れ、明るく人々を迎える空間とする
- ◇ 液晶パネル等を用いて「地域の魅力・情報」等を発信する

●交流広場＝交流と賑わいの核となる空間

<デザインアイデア>

- ◇ 新しい諫早への期待感や賑わいを演出する（ソフト面も）
- ◇ 高低差を活かし、「見る・見られる」関係を楽しめる工夫を
- ◇ イベント等での利用が可能な装置を備える（舞台、設備等）
- ◇ 壁面や床、階段（蹴上等）に諫早を醸し出すモチーフを施す
- ◇ 情報発信や待合い、休憩ができる機能の導入



自由通路デザインのイメージ

※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。



交流広場デザインのイメージ

※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。

3) 交通広場のデザインについて

- 交通広場（東口）のデザインイメージについて、以下のような空間を提案する。

<空間イメージ>

「諫早らしさ」、「おもてなし」を表す空間

●交通広場＝来訪者がその土地の雰囲気を感じる空間 + 市民や来訪者がひと休みできる空間

<要素ごとのデザインアイデア>

①歩道等の表層

- 敷地や広場に同じ素材を用いる等、統一感のある仕上げとする
- 歩きやすく、安全でかつ管理しやすい素材とする

②モニュメント等

- 訪れた人に対して、観光や地域の歴史・文化をアピールできるものとする
- 市民が親しみのある、地域の文化（伝統行事）や自然環境を表現するものとする

③待合空間

- 待ち合わせ等で初めて来た人にも認識しやすいものとする（シンボルツリー等）
- 市民や来訪者がひと休みできる空間とする（ベンチ等の設置）

④ユニバーサルデザインほか

- ベンチや手すりなど障がいの有無や年齢、性別等に係わらず誰もが利用しやすい空間とする



交通広場（東口）デザインのイメージ

※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。

<要素ごとのデザインアイデア>

⑤植栽

- 全体として見通しを充分確保し、管理しやすい樹木とする
- シンボルツリーを設置し、待合空間に木陰をつくるものとする

⑥シェルター

- 建物のデザインと調和した、合理的かつ機能的なデザインとする
- 人が溜まる部分には比較的大きな屋根を設ける

⑦照明

- 沿道には、連続照明を配置し、特徴的な雰囲気を出すものとする
- 全体として統一感があり、機能性とデザイン性を兼ね備えたものとする
(例えば、埋め込み式のライトで通行を阻害せず、かつ間接光による演出も可)

⑧サイン

- 誘導サインは、統一されてわかりやすいサインとする



歩道舗装材
(ガタツキ防止タイプ)



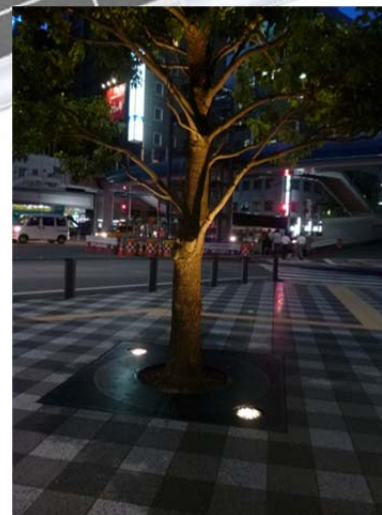
モニュメント
(眼鏡橋の模型などの設置)



照明灯
(ソーラー)



モニュメント (地域の文化・伝統行事をアピール)



機能性とデザイン性を兼ね備えた照明



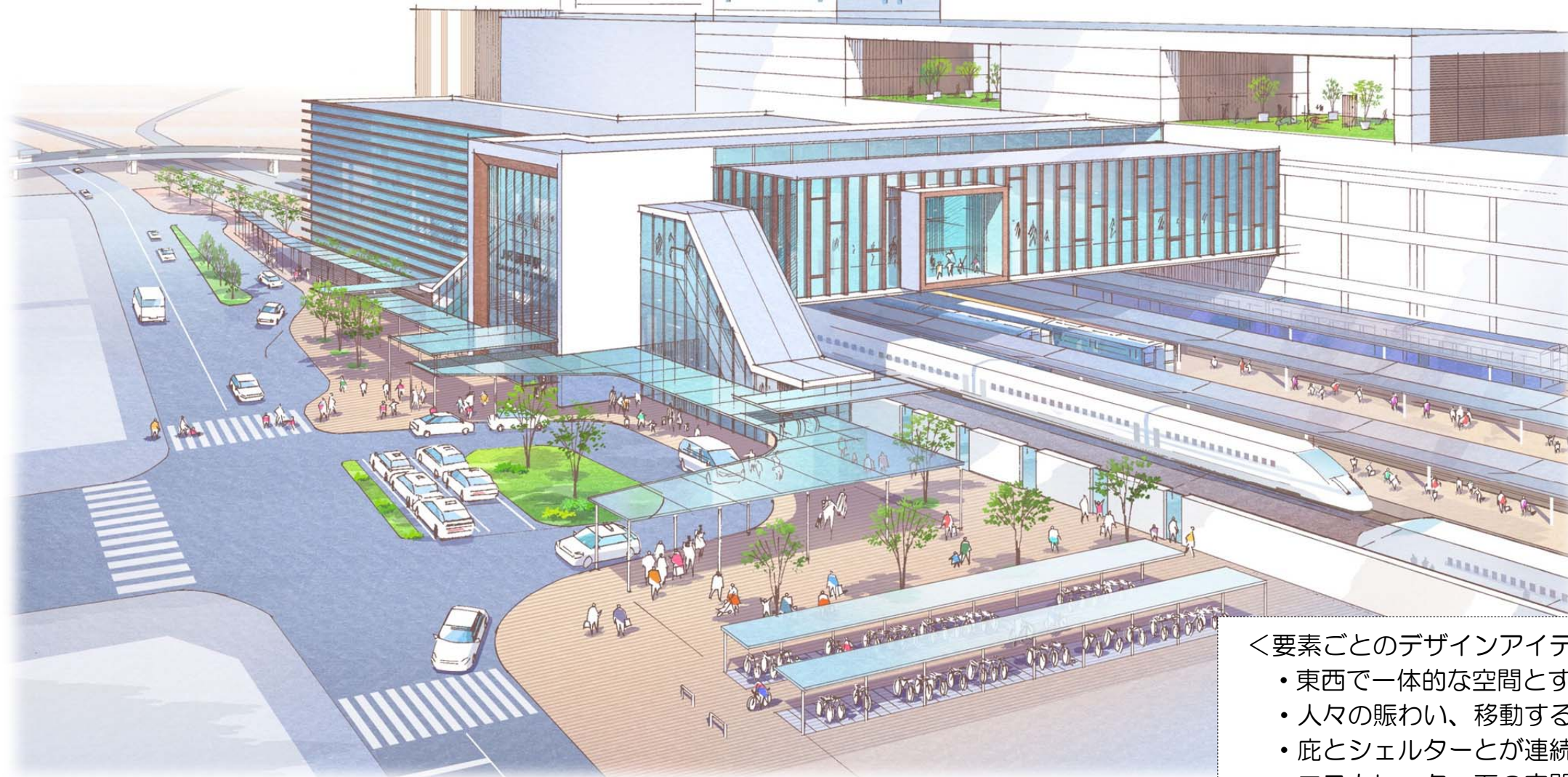
シェルター (バス・タクシー乗降への配慮)

※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。

交通広場（西口）及び外観デザインのイメージ

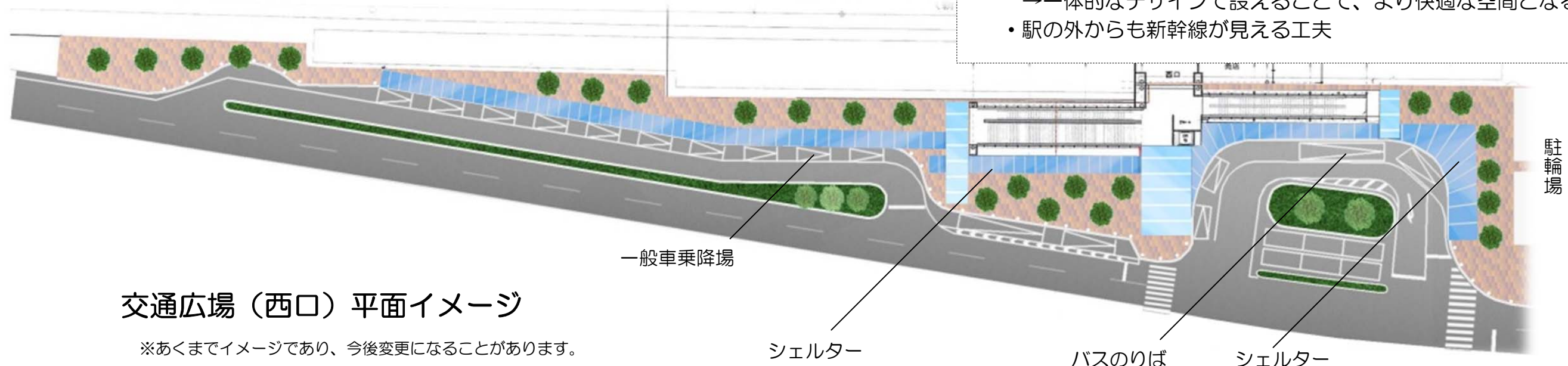
※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。

- 交通広場（西口）及び自由通路のデザインイメージについて、1)で整理した、「外観デザインイメージ」を踏襲し、以下のような空間を提案する。



＜要素ごとのデザインアイデア＞

- 東西で一体的な空間とするために「ゲート」のモチーフで表現
- 人々の賑わい、移動する姿を映し出すガラスのファサード
- 庇とシェルターとが連続し、快適な歩行空間を確保
- エスカレーター下の空間を待合い、トイレ、喫煙所等に活用
→ 一体的なデザインで設えることで、より快適な空間となる
- 駅の外からも新幹線が見える工夫



交通広場（西口）平面イメージ

※あくまでイメージであり、今後変更になることがあります。

4. 諫早駅周辺整備に伴い配慮・検討すべき事項

1) 広場を中心とした周辺地域への波及・調和

- 周辺への一体的なデザインの波及と賑わい空間の連続性の確保
(周辺建物の高さや色の調和、街路樹や歩道舗装の統一など)
- 周辺のまちなみ景観をけん引するデザイン
(今後の民間開発等への波及)

2) 景観ルールづくり

- ビル壁面や広場における景観等への配慮
(壁面広告物など)
 - * 良好な景観を損なわないよう、建物形態や色彩等と調和のとれたものとする
 - * 共同表示をするなど、必要最小限の数・面積になるよう努める
- (案内表示板など)
 - * 計画的な配置を行うことにより、乱立を防止する
 - * 見やすくわかりやすい、シンプルなデザインで統一感を図る。

3) 魅力とにぎわいづくり

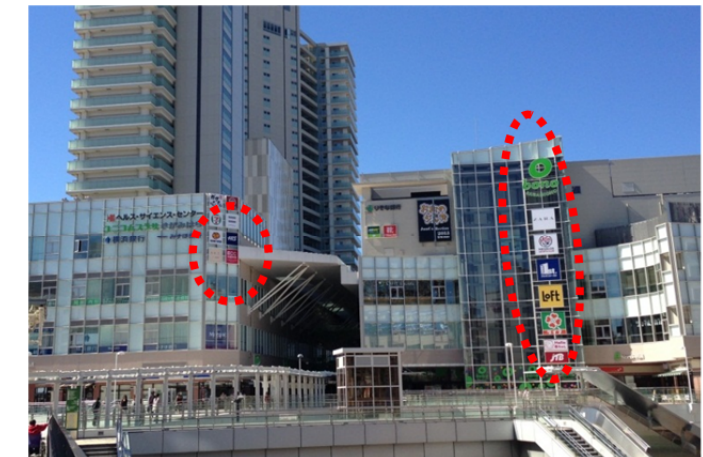
- 光を使った演出(照明、イルミネーション、プロジェクションマッピングなど)
- 運営体制、組織などソフト面での計画、戦略(地域住民や企業などによる花苗の植え付け・維持管理など)

4) 環境にやさしい空間づくり

- LEDや自然エネルギー(太陽光、雨水)の活用



・同じデザインの街灯が、
広場から通りへと続き、
一体感が生まれる
(博多駅前通り)



壁面広告の掲載を一定のエリアに限定した事例
(相模大野市 bono (ポーノ))



統一された番号による誘導(JR博多駅)

5. 参考資料

1) 検討会議で出された意見（工夫すべき点・アイデア等）

- ・検討会議を通じて挙がった意見について以下に整理した。

●公共施設・機能について

- ・多世代交流の場として幼児から児童、高齢者まで交流できる場が必要。公共交通機関を充実させ（駅周辺の周遊するバスの運行など）、地元の高齢者や乳児・幼児をもつ母親などが随時、利用できる機会を提供することを望む。
- ・初めて駅を訪れた人はどこに何があるか分からないため、地図は必ず設置した方が良いと思う。音声案内付の地図があると良い。
- ・トイレは男性、女性、多目的と一目で分かりやすいように大きく掲示した方が良いと思う。
- ・女性用トイレの手洗い場は、手を洗うだけでなく化粧直しの場として活用する人も多くいるため、手洗い場とは別に化粧直しの場を設ける必要もある。
- ・壮年層から高齢者層にかけて、バリアフリー（段差の解消、手摺、スロープ設置、エレベーター、エスカレーター、車いすやベビーカーが通る幅広い歩道など）の推進と安全で快適な歩行空間等の整備が必要。
- ・トイレは夜間利用（特に女性）でも安心できるようにしてほしい。
- ・タクシー乗り場と一般駐車場バスプール・歩道と区別をはっきりしてもらいたい。
- ・コミュニティバスの運行、商店街と駅を結び利用客には、商店街のクーポン券など発行し駅構内の商業施設だけではなく、地域の活性化を誘発する仕組みづくりが必要。

●広場空間等について

- ・待合室を出たところは高めの屋根を工夫すべき。
- ・本明川や滝イメージのイルミネーションが取り付けられるようにしてほしい。
- ・雨の日でも滑らない、雨水の浸透性のある舗装にすべき。
- ・歩道の向こう側の一般道とバス待ち合いにベンチ柵を使ってはどうか。
- ・本明川へのアプローチがあっても良いのではないかな。
- ・待合室等には、高齢者にやさしいコルク素材を壁面、床面に使用してほしい。
- ・待ち合い空間に、高齢者がゆっくりできる畳のような和の空間を設けてはどうか。
- ・床に眼鏡橋や市の木、花などの図柄をデザインしてほしい。
- ・木や石を利用した和風空間の演出
- ・大きな時計の設置
- ・夏の暑さ対策としてミストの設置
- ・バス停には安全対策として横断防止策を設置し、腰かけとしても利用できるものを設置

●施設計画・運営等について

- ・自転車等利用者の利便性を確保するため、駅東西に駐輪場を整備するにあたっては、駅周辺デザインにマッチした計画としてほしい。
- ・活気がある状態を維持するためにはどうしても人手が要る。（駅周辺の活動等に）高齢者ボランティアの力が借りられると尚良いと思う。
- ・自由通路と一体的な多目的床の利用計画は重要であり、運営体制を含め、戦略性を持った計画を明示していく必要がある。
- ・更に付近の住民や通常の利用客がたたずめる空間であって欲しい。
- ・諫早のシンボル眼鏡橋の小さいものを作り、週替わりで小浜の湯、雲仙の湯など地域の温泉を「足湯」にはどうか。
- ・これまでの施設は創る側で考えたものが多い。これからは人に優しく使う側の気持ちで考えるべき。
- ・季節、天候、時間帯に応じて照明の量（明るさ）を調整出来るようにしたら、違った雰囲気味わえて面白い。
- ・諫早駅の東口、西口に地域にちなんだ名前を付けるなど、市民が親しみを持てるような工夫があってもいい。
- ・喫煙所を設置して分煙対策を検討すべき
- ・路面に誘導表示ができないか。
- ・ハンギング式のプランターを利用し、立体的な植栽行う。

●諫早全体での取り組みについて

- ・諫早は地理的には便利な場所である事をアピールすべき
- ・交流拠点として、県央（諫早、大村）だけでなく、島原、県北、長崎へのアプローチを感じられる（行きたくなる）空間にしてほしい。
- ・観光客に対して派手な宣伝（看板）より、まずゆっくりゆったりしてそこから見たいところを捜す様な仕掛けであるのが諫早らしい。

2) 再開発ビルの外観デザイン



【B案】(参考)

◆息づく歴史を礎に、未来へと繋がる架け橋

- ・「眼鏡橋」の曲線美と風格が漂う色合いを低層部に引用
- ・伸びやかなラインは未来へと繋がる「架け橋」をイメージ
- ・連続したリズムは、飛び石を渡る軽快感、楽しさを表現
- ・上層部では縦ラインを強調し、上昇感、期待感を表現

【C案】(参考)

◆水と緑と歴史が折り重なる、誇りと趣のやすらぎ空間

- ・歴史と共に受け継がれてきた「干拓地」をファサードに引用
- ・交流の中心となる広場空間には、諫早ゆかりの彩りを演出
- ・豊かな緑に囲まれた、趣のある安らぎの空間をイメージ
- ・横ラインを強調することで、自然と歴史の重なりを表現



6. 検討会議の組織と経過

1) 委員名簿

No	氏名	所属等	備考
1	チシャキ タケシ 樗木 武	九州大学名誉教授	学識経験者
2	ノナカ アキヨシ 野中秋吉	都市計画・技術（元諫早市職員）	学識経験者
3	セノ コウイチ 勢野 雄一	諫早地域審議会 会長 諫早市中心市街地活性化協議会 幹事長	地元代表
4	ヨシオカ トシオ 吉岡 俊夫	諫早市永昌東町商店街協同組合 専務理事	地元代表
5	ニシ センジ 西 善次	諫早駅前周辺を考える会 会長 永昌東町自治会 副会長	地元代表
6	チバ マサコ 千葉 まさこ	医療法人 祥仁会 介護老人保健施設 ろうけん西諫早 施設長	地元代表
7	アラキ ノブヨ 荒木 宣代	元・(社)長崎県看護協会 会長	地元代表
8	マツオ クミコ 松尾 久美子	(資)八千代 観光ホテル八千代 女将	地元代表
9	ハラ マサヤ 原 雅也	長崎県県央振興局建設部 都市計画課長	専門委員
10	ヨシオカ ヒロユキ 吉岡 浩幸	長崎県県央振興局建設部 建築課長	専門委員
11	ムラオカ ノリコ 村岡 則子	長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科 准教授	専門委員
12	ヤマグチ ケンスケ 山口 健介	長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科 3年	一般学生
13	コミチ レナ 小道 玲菜	長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 社会福祉学科 3年	一般学生

2) 検討会議の経過

平成26年10月 2日 【第1回デザイン検討会議】
10月末～ 約2週間
【第2回デザイン検討会議（意見照会）】
11月17日 【第3回デザイン検討会議】
12月末～ 約2週間
【第4回デザイン検討会議（意見照会）】
平成27年 1月29日 【第5回デザイン検討会議】
2月12日 【第6回デザイン検討会議】



第1回デザイン検討会議



久留米駅視察



新鳥栖駅視察



第3回デザイン検討会議